

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-51C	21-072	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
The Association Between Heavy Alcohol Use and Gastric Cancer 多量飲酒と胃がんの関連		
執筆者		
Wu H, Chen HL.		
掲載誌		
Am J Gastroenterol. 2021 Dec 1;116(12):2470-2471. doi: 10.14309/ajg.0000000000001325.		
キーワード	PMID	
アルコール摂取量、胃がん、用量反応関係	34101667	
要旨		
<p><b>目的:</b> 米国国民健康栄養調査 (NHANES) データベースを用いた米国成人集団のサンプルを用いた研究において、大量のアルコール摂取が胃がん (GC) のリスクと関連していることを報告しているが、用量反応関係を踏まえ、曝露と反応確率の因果関係を定量化することで、因果関係を明示することを目的とした。</p>		
<p><b>方法:</b> 1999 年から 2010 年までの NHANES データベースより、ロジスティック回帰分析を再構築し、オッズ比 (OR) と 95%信頼区間 (95%CI) を求めた。三次スプラインを用いて、アルコール摂取量 (杯/日) と GC との関係を検討した。</p>		
<p><b>結果:</b> アルコール摂取量 (杯/日) と GC リスクとの関連は非線形であり、危険因子未調整 (OR : 3.10、95%CI : 0.75-12.86)、年齢、性別、人種、教育レベル、喫煙、移民の有無で調整後 (OR : 1.31、95%CI : 0.28-6.06) のいずれも統計的に有意でなかった。アルコールの大量摂取が GC と関連するという結論を支持するものではなかった。GC の危険因子として、低社会経済的地位、家族歴、高リスク集団での生活、放射線被曝、胃の手術歴、自己免疫性胃炎、肥満などが挙げられておらず OR の正確な推定に影響する可能性がある。</p>		
<p><b>結論:</b> 毎日のアルコール摂取と GC との関連について、危険因子を調整し分析した結果、毎日のアルコール摂取と GC との間に統計的に有意な関連は認められなかった。アルコール摂取量と GC の間に非線形的な関係があることを示し、アルコールの大量摂取が GC と関連するという先行研究の結論を支持しなかった。また、遺伝子・環境相互作用は、因果関係やリスク推定の精度に影響を与える可能性があるため今後検討が必要である。また、本研究は横断研究であり、時間的関連が明らかでないため、因果関係についての結論は、より慎重を要する。</p>		